

《大会規定》

1. 1チームの登録選手、中学生の部および中学1年生の部は11名以上25名以下とする。
2. 登録選手は連盟に登録され、指定のスポーツ安全保険加入者に限る。
3. 登録選手及び登録された監督・コーチ・マネージャーのみベンチに入ることができる。
4. 組み合わせの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側ベンチに入る。
5. 監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用し、マネージャーは選手と同じ帽子を着用する事。
6. 試合開始時間1時間前に試合場に到着し、本部に報告する事。
7. 到着と同時にスターティングメンバー表を5部、審査証、登録役員・選手名簿を本部に提出し、所定の場所で道具審査を受ける事。
8. メンバー表交換時に両キャプテンにより、先攻・後攻をジャンケンで決める。
9. 試合開始時間までにチームが到着していない時、球場責任者と責任審判が協議をして没収試合を宣言することができる。
10. 投手投球制限は投球数制限を採用する。
詳細は後述の中学生投手の投球制限統一ガイドラインを確認してください。
11. 各学年の試合回数は次のとおりとする。
中学生の部及び中学1年生の部は7回とする。
コールドゲームは中学生の部、中学1年生の部は4回10点差、5回7点差とする。
試合成立後は試合開始から、中学生の部及び中学1年生の部は2時間を超えた場合は新しいイニングに入らない。7回終了時または2時間を超えて同点の場合は、延長戦を行わず、タイブレーク方式を実施する。
決勝戦は2時間を超えていなければ、最大2回まで延長戦を行い、2時間を超えていればタイブレーク方式を実施する。
12. 降雨、日没その他の理由により試合の続行が不可能となった場合、4回以降であればコールドゲームが成立、3回以内であればサスペンデッドゲームとする。
13. 試合前のシートノックは行わない。
14. 攻守で監督及びコーチの指示・伝達は1試合で各2回の計4回を限度する。
延長に入った場合は、1回の指示・伝達を認める。
(選手の怪我や、選手の交代などは回数をカウントしない)
守備側の投手に対する指示・伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することは出来ない。
内野手(捕手含む)が、2人以上投手のところに行った時も1回に数える。
また、指示・伝達は審判がタイムを宣言してから「30秒以内」とする。
15. 監督またはコーチが選手にアドバイスする時は、マウンドのところで行う事。
16. チームの抗議権は監督のみにあり、監督不在の場合はコーチが代行する。
17. ヘルメットを1チーム7個以上揃える事(各チームが持参する事)
18. バット及びボールは連盟指定のものに限る。
19. 捕手は必ずユニフォームの下に規定防具を試合及び練習を問わず着用する事。
20. グランドの都合で大会トーナメント規定が別に制定されるとそれに従う事。
21. 大会中の負傷等については応急処置を行うが、それ以外の責任は持たない。
(対人・対物事故の賠償責任もチームで加入の保険対応をお願いいたします。)
22. その他の規定は、日本少年野球の規定に従う。
23. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。

《タイブレーク実施細則》

1. 特別規制

(イ) 中学生の部および中学1年生の部は、7回または試合開始時間2時間

(いずれか早い方)決勝戦は延長9回あるいは2時間を超えて(いずれか早い方)

両チームの得点が等しい時、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。

(ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。

(ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者とする。

(ニ) この場合の代打および代走は認められる。

2. チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は、公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意する事。

(イ) 投手記録

- ・規定による3走者は、投手の自責点とはしない。
- ・完全試合は、認めない。
- ・無安打、無得点試合は、認める。

(ロ) 打席成績

- ・規定により出塁した3走者の出塁の記録は、ないものとする。
但し、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは、記録する。
- ・規定により出塁した3走者を絡めた得点、併殺打などは、すべて記録する。